

春

〔倭名類聚抄一〕春三月

〔類聚名義抄二〕春齒均切

〔伊呂波字類抄波〕春ハル

〔八雲御抄三上〕春 はつ たつ ゆく

〔和爾雅二〕春釋名曰春蠢也動而生也

〔神代卷口訣三〕春ハルガコト之ハル言ハル木ハル牙ハル發ハル也

〔釋名一〕春ハル蠢也動而生也

〔倭訓栞前編〕二十四はる 春は發ハルの義萬葉集に春は張乍と見え後の歌にこのめはるさめなど

よめり

〔東雅一文〕

春とは草木の芽はる時なればハルといふ古語にはハラクといひしはもえ出るをい

ひし也秋とは草木の色かはりぬる時なればアキといふ也古語にアキといひしは黄なる色を

いひし也といふ説あれど草木のもえ出るを芽もはるなどいひしは春といふことば黄ばむ色

をアキなどいひしも秋といふことばによりていへる也たとへば物を販ヌぐをアキモノといふ

ことのごとしハルとのみいひアキとのみいはんにいかにしてかは草木のもえ出て黄葉する

義也とはわきまへざるべき開の字讀てハラフともホルともいひけり原をハラといふも開な

りまかるに今も筑紫の人は原をいひてハルといふ也これら方言にはあれどハルといふは開

の義なる事の徴とはなしつべしホルといひハルといふがごときもまた轉語也アツといひナ

ツといふがごときももとこれ轉語にしてまたナといふ也ことばを長く呼時はをのづからア